

北 陸 巡 検 （ 内 藤 先 生 ）

1 0 月 1 4 ~ 1 6 日

10月14日。快晴。鯖江のめがねワク工場を見学する。鯖江は小さな市だが、全国の80%以上のめがねワクを生産している特色ある市である。市役所の人に案内されて見学したのは竹内産業というめがねワク工場、思ったより小さなところだった。数十人が流れ作業でめがねワクを作っている。セルロイドの板きれがどんどん手を加えられてめがねワクになって行くのを見るのはおもしろい。

10月15日。曇り。小松市。「ひかりを小松へ」なんていうステッカーがそこいらじゅうにはあってある（北陸新幹線小松停車駅実現を期そう、ということなのだ）。市役所の人に案内されて小倉織物という織物工場を訪れる。小松は高級絹織物の産地として有名である。工場内は織機の音がうるさくて説明もよく聞きとれない。ジャカードという穴がポツポツあいたたくさんのカードから成るものが織機の上に組みこまれていて、これが複雑な模様を織りこんで行く。この工場には森英恵さんの特別注文も来るのだとか。

午後は今江瀧干拓地にある拓栄町を訪れる。ここは44年に8戸が入植している。1戸あたりの耕作地は5ha。農家の人に聞くと5haでは普通のサラリーマン以下の収入だとか。ここは水田だけの一毛作で、地盤がゆるいので機械化もむずかしいらしい（もっとも田植えなどは機械でやる。小学校の時の社会の教科書にはもんぺ姿のおばさんが腰をかがめて田植えをしている写真なんかのっていただけ）。空巷のそばだから騒音公害などはありませんか、と聞くと、「田んぼにいたって腹にビリビリッとひびくさかいな。」「腹たつから鉄砲持って撃ったるか思うよ」。

10月16日。晴れ。金沢市。石川県織物組合をたずねる。現在、金沢から能登にかけては羽二重にかわって合成繊維が主になっている。津田駒という機械工場を見学した。織機にもいろいろな種類がある。何色もの糸を使って複雑な模様の生地を織る機械を見た。お昼ごろこの工場を出たところで解散。

（ 2 年 上 弘 子 ）